

第56回五山賞

とよたかずひこ

「ぞうさんきかんしゃ ぼっぼっぼっ」

受賞

選考経過

(脚本・絵 とよたかずひこ 童心社)

例年にならない、演じ手側から「ひょうしぎの会」と創り手側から「紙芝居研究会」による第一次選考を経た10作品(うち2作品は両会より選出)を菊池好江さん(ひょうしぎの会)が、順次演じ、脚本・絵の各々5点満点の配点で、審査員6名(片岡輝審査委員長・福田岩緒・水谷章三・吉松美代子・和歌山静子・わしおとしこ)が総合的に審査し、討議の結果、1位 8・46点を得た「ぞうさんきかんしゃ ぼっぼっぼっ」が、満場一致で決定となった。

選考理由

幼年向けの紙芝居は、乳児対象であり、場面数が少ないという点から、今まで五山賞対象作品になりにくかった。しかし、今年度の作品は、演じ手、創り手の両方から推薦されて、高得点を得て、堂々の受賞となった。

とよたさんは、幼年紙芝居の分野で大きな実績を作り、幼年紙芝居の分野を確立した功績も高く評価された。

五山氏が現代に存命ならば、受賞作のようにフィックス(固定画面)を使って描くだろうと思わせるほど、フィックスを非の打ちどころなく使い、安定感を醸し出している。

8場面なのに、シンプルな構成で、「ぼっぼっぼっ」という繰り返しの動きと、全画面、動物の全身を描き切っているのは、幼児の視覚認識と紙芝居の特性を熟知しているとよたさんでなければ、創れない。この繰り返しを重ねるたびに、子どもたちのクスクスという笑いが起こってくるようなリフレイン効果も考えられていて、子どもたちの心の動きをよくすくい取っている作品である。

受賞者紹介

とよたかずひこ(豊田一彦)

1947年生まれ。宮城県仙台市出身。早稲田大学第一文学部卒業後、イラストレーターをへて、絵本作家として活躍。代表作に絵本『どんどこももんちゃん』『おいしいともだち』シリーズや、紙芝居『でんしゃがくるよ』等多数。

第4回右手悟浄・和子賞

青木昭子さん 受賞

選考理由

相模原でグループをつくり近隣の施設(保育園や小学校)で紙芝居を演じていく中で、右手和子氏を知り、紙芝居を演じるには間が重要であること会得し、間の研究論文を発表した。

一方、1987年に堀尾青史の作家ゼミに参加し、堀尾青史の紙芝居へ掛ける情熱と作劇の力に感銘を受け、堀尾作品のとりこになる。

神戸に転居してからも積極的に図書館や学童クラブなどに出かけ、堀尾作品を中心に実演活動を展開していく。2013年から堀尾青史の「生誕100年記念」の展示会を企画し、堀尾の出身地高砂へ通い、「生誕100年記念展示会」(2014年)の開催を実現させた。展示方法は、多彩な堀尾作品の特徴や作風を分かり易く見せる、パネル形式の展示法を考案した。この方法により、初回展示から3年にわたって、各地の11会場で展示会を開催することができた。この活動は、紙芝居の発展に大きく貢献し、高く評価された。



「紙芝居三賞」と子どもの文化研究所

紙芝居の伝統と歴史を受け継いで

紙芝居は1930年（昭和5年）に誕生した日本独自の文化であり文化財です。戦前から紙芝居運動を担ってきた方々を中心に、1969年に創立された子どもの文化研究所は、創立以来紙芝居の伝統と歴史を受け継いで、紙芝居文化の発展を願い、紙芝居関連の活動を事業の柱の一つとしてきました。それは、紙芝居の創造・研究・普及活動とそれを担い支えている方々を顕彰する事業です。歴史を重ねる「五山賞」と、2015年に右手賞と堀尾賞が創設され、この三賞でますます紙芝居文化の向上・発展と普及に大きく寄与しています。

五山賞【年間出版された紙芝居の中から最優秀作に贈られる。創作】

「五山賞」は、教育紙芝居生みの親、高橋五山の業績を記念した賞で1年間に出版された紙芝居の優秀作品を顕彰する紙芝居のグランプリです。作家・画家・研究者による五山賞審査委員会によって、選考され、紙芝居の質的向上と作家・画家・編集者の育成に寄与してきました。

2018年で56回になります。第1回受賞作は1962年の『池にうかんだびわ』（川崎大治作）。

右手賞（紙芝居の演者として優れた業績を上げた個人、団体に贈る。普及）

「右手賞」は、2015年（平成27年）に設けられました。1937年（昭和7年）に東京で紙芝居制作を業とする「さざなみ会」を興し、各地で実演指導に従事した紙芝居口演者であった右手悟浄氏と、その血を受け継いだ不世出の演者として、2012年に急逝されるまで、全国を舞台上に活躍して、紙芝居の魅力を若い世代に広めるとともに、当研究所所員として後進の教育・演技指導に精力的に活動された右手和子さんの、親子二代の業績を記念して設けられたもので、紙芝居の演者と普及活動に優れた業績をあげた個人・団体を対象に贈られます。

堀尾賞【学術研究、調査、評論活動など紙芝居文化の振興に貢献した個人、団体に贈る。研究】

「堀尾賞」は、児童文学作家・紙芝居作家・宮沢賢治研究者・五山賞創設者・第三代子どもの文化研究所所長として子どもの文化に関わる広い領域で活動された堀尾青史氏の業績と生誕100年を記念して、2015年に設けられました。

堀尾氏は、77年の生涯に256本に及ぶ紙芝居の脚本を残されたほか、紙芝居理論の構築や後進の指導に尽くされた紙芝居文化の先達です。

堀尾氏の名を冠した「堀尾賞」は、紙芝居に関わる学術的研究、調査、国際交流、学術的出版、評論活動など、広く紙芝居文化の振興に貢献した個人・団体に隔年で贈られます。

すでに歴史を重ねてきた「五山賞」と2015年度より設けられた「右手賞」「堀尾賞」の二賞を合わせた三賞が、国境と文化の障壁を超えて、教育・コミュニケーションツールとして注目を集めている紙芝居の新しい可能性の開発と、文化としての成熟・普及を飛躍的に推し進める促進剤として機能することを確信しています。

一般財団法人文民教育協会 子どもの文化研究所

〒171-0031 豊島区目白3の2の9

03(3951)0151

FAX:03(3951)0152

メール:info@kodomonobunka.or.jp